

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立下坂部小学校運営協議会 会長 石田 歩美
事業名	令和2年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	A	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ① コミュニティ・スクール導入に係る運営協議会を年4回以上実施し、運営協議会と学校、運営協議会委員相互の共通理解を図り、協働体制を構築する。 ② 学校運営協議会において学校評価を実施する。
	測定方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 運営協議会の実施回数 ② 学校運営協議会委員へのアンケート
	結果	<ul style="list-style-type: none"> ① 運営協議会を4回、支援部の顔合わせを含めた交流会を1回、計5回の会議を開催し、運営協議会と学校、ならびに運営協議会委員相互の理解推進を図ることができた。 ② 学校運営協議会を定期的に行うことで、教育活動を十分に理解した上での評価を得ることができた。コミュニティ・スクールとしての具体的な活動自体はコロナ感染対策もあり十分とは言えなかったが、具体的な活動を進めていく機運が高まった。

3 総合評価

協働側面の評価

- ・コミュニティ・スクール導入の初年度ということで、コミュニティ・スクール導入の目的、コミュニティ・スクールの定義、下坂部小学校のコミュニティ・スクールの目指すところなどを運営協議会で共有することを目指した。
- ・社会教育課が作成した実施要領のひな型を基に、下坂部小学校運営協議会実施要領を作成し、学校長が学校の運営方針や学校運営協議会と地域学校協働活動の意義を運営協議会委員に説明し、従来の地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの重なる部分と新たな役割等について共通理解を得ることができた。
- ・社会教育課の発行するCS通信やCAテレビ放送において連携を図り、学校運営協議会や地域学校協働活動における情報発信を行うことができた。

事業効果の評価

- ・運営協議会の開催を通して運営協議会委員と学校、運営協議会委員相互の共通理解を図り、どのようなコミュニティ・スクールを目指していくかについての話し合うことで、学校の教育方針や課題等を共有し、学校への理解を深めるとともに、地域学校協働活動等の方向性を確認することができた。
- ・コロナ禍ということで、具体的な活動を進めにくかったが、感染対策を講じた上で、できる活動の一つずつ積み重ねていくことができた。
- ・社会教育課と学校運営協議会が取組について適宜、情報交換を行いながら、学校評価を学校運営協議会で実施する等、既存の評価制度の活性化につなげることができた。

総評

- ・「近松学習に関わる学び」という下坂部小学校ならではの取組を学校と地域が協働した取組の核に据えてコミュニティ・スクールをスタートすることができた。地域の宝、誇りである「近松」についての学習に子どもたちが取り組んでいるということで、地域としても児童の学びの後押しをする気運が生まれている。

- コミュニティ・スクールとしての具体的な活動を一つずつ積み重ねていくことで、「学校からの依頼や要望に地域が応える」という形から、地域が学校と共に子どもたちに関わることによって、「こんな子どもたちに育ててほしい」という地域の願いが実現するようになっていきたい。
- 学校運営協議会の運営については、社会教育課と学校運営協議会で連絡を取りながら連携するとともに、地域や保護者への取組の周知については、両方で役割分担をしながら実施することができた。
- モデル校としての実績を社会教育課と共有し、本市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進に向けたノウハウを蓄積することにつながった。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立大庄小学校運営協議会 会長 松岡 洋司
事業名	令和2年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	C
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	この事業に参加して、これまで以上に学校についての理解や愛着が深まったか。
	測定方法	アンケート調査による
	結果	自己評価の結果に見られるように、学校の立場や組織・ルール等を共有し理解し合うことが出来たという回答が多く寄せられていることから、メンバーも手ごたえを感じる事が出来たように思われる。

3 総合評価

協働側面の評価
<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、思うような活動をする事ができなかったことが残念である。しかし、いくつかの部会では、感染拡大予防の手だてをしながら活動するなど、状況に応じて取組を行うことができた。活動を通して、子どもたちと触れ合うことで、互いの名前や顔を覚え、人間関係が深まった。・概ね課題や目標について共有しながら事業を進めることができたが、お互いにもっと話し合いながら進めていくことで、ニーズに応じたサポートができたのではないかとと思う。
事業効果の評価
<ul style="list-style-type: none">・アンケートによると、協議会のメンバーは、学校が目指すものを理解することに意欲を持ち、学校や子どもたちの役に立ちたいという思いを深めたように思われる。互いの立場を理解して歩み寄り、力を合わせることの意義を感じつつあるようである。・会議に社会教育課も参加し、コミュニティ・スクールを推進するにあたり、活動を通じて学校のことや子どもの様子を知ってもらうことから始め、地域と学校が連携することで、子どもたちの学習の充実や教師の負担軽減につながることを説明し、運営協議会の方向性を互いに確認した。
総評
<ul style="list-style-type: none">・上記でも触れたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため委嘱式もなかなか行えない状況であったが、その中で地域を舞台に活動を行った。新型コロナの流行の終息は、簡単ではないと思われるが、各部会のメンバーの熱意と工夫で活動を続けていきたい。地域における子どもの居場所づくりや見守り、学校の学習の補助、地域と学校との仲立ちなどに努めていきたい。・コロナ禍で集まって会議をすることが難しい状況であったが、委員同士がSNSで連絡を取り合うなど工夫をし、地域のつながりを更に深めることができた。・学校運営協議会の運営については、社会教育課と学校運営協議会で連絡を取りながら連携するとともに、地域や保護者への取組の周知については、両方で役割分担をしながら実施することができた。・モデル校としての実績を社会教育課と共有し、本市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進に向けたノウハウを蓄積することにつながった。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立長洲小学校運営協議会 会長 高谷 浩司
事業名	令和2年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	C	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	長洲小学校が目指すコミュニティ・スクール像の理解度と参加への意識
	測定方法	令和2年度コミュニティ・スクール振り返りアンケートの実施
	結果	アンケートでコミュニティ・スクールへの理解が出来たと答えた委員は、出席委員13名中、8名だった。また、活動へ参加できたと思った委員は4名だった。

3 総合評価

協働側面の評価

・かけっこ教室や昔遊び体験などの地域学校協働活動は、将来的には体育の授業と結びつける活動へ発展することが期待できる。中学校の畑で武庫一寸豆の苗を植える事業では、将来的に小中の連携事業への発展の可能性が期待できる。地域の見守り活動は、子どもの登下校の安全を守るために欠かせない事業だが、参加される方が高齢の方ばかりなので、未永く続けていくためにどうすれば良いかが課題になる。

・コロナ禍で計画どおりに会議の開催ができない状況でも、運営協議会委員が少人数で集まり、今できる活動を話し合いながら進め、社会教育課も他校の取組の情報を提供したり、互いに相談しながら地域学校協働活動を実施することができた。

事業効果の評価

・アンケートでは、コミュニティ・スクールの活性化のためには、地域・保護者・教職員・児童のつながりが重要とする意見、子どもたちを学校任せにせず、地域や企業が一体となって応援できるコミュニティ・スクールになればいいという意見、学校の希望に対して我々が提供できる具体案を考え取り入れていけばよいという意見等、学校の教育活動に積極的に努力していこうとする意見がある反面、学校周辺の地域が活性化するために地域活動への学校の積極的な参加を求める意見も見られた。

・会議の運営や委託金の活用方法等について社会教育課が情報提供や相談を受け、連携を密にしながら事業を進めることができた。

総評

・コミュニティ・スクールは、地域が学校の教育活動を支援し、これに対し学校が地域の行事に協力するものではなく、子どもの安心安全や健やかな成長を中心に考え、学校と地域、保護者が協力していくものだと思っている。そのことを運営協議会で何度も校長が説明したが、今後もコミュニティ・スクールの意義を伝えるため、運営協議会委員に丁寧な説明が必要だと思う。

・来年度も、コミュニティ・スクールの目的を委員の人たちに伝えていきながら、学校へも入ってもらって、理科や家庭科、体育などの授業への協力や、英語、プログラミングなど新しい取組への協力をお願いしていきたい。

・学校運営協議会の運営については、社会教育課と学校運営協議会で連絡を取りながら連携するとともに、地域や保護者への取組の周知については、両方で役割分担をしながら実施することができた。

・モデル校としての実績を社会教育課と共有し、本市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会

制度) 推進に向けたノウハウを蓄積することにつながった。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立武庫庄小学校運営協議会 会長 野桐 実
事業名	令和2年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・ 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・ 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・ 協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・ 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	A
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	B	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	会議を開催することで、地域との連携を深めることができたか。
	測定方法	会議の実施回数による
	結果	新型コロナウイルス感染症の影響で、臨時休校や分散登校が1学期の前半を占めてしまった。会議を持つことも困難であったが、子どもたちの命を最優先に考え、工夫をして地域と学校が共通理解のもと活動をすすめることができた。2学期以降に3回の会議を開催することができた。

3 総合評価

協働側面の評価
<ul style="list-style-type: none">・学校の教育活動に制限が多かったが、そんな中でも子どもたちに農業体験や自分の命を守るための体験活動を提供できたことは成果であった。・学校運営協議会としては、学校ホームページで取り組んだ活動を保護者等に周知し、社会教育課は、市のホームページで活動紹介するなど、お互いが連携して広報活動を行うことができた。
事業効果の評価
<ul style="list-style-type: none">・学校と地域が協働しようとする意欲があっても、やはり活動するための費用は必要になる。今年度、尼崎市より本活動に対して委託金が発生したことはよりよい活動ができることにつながった。やりたかったことが実現できつつあると評価できる。・会議の運営や委託金の活用方法等について社会教育課も他校の取組の情報提供や相談を受け、連携を密にしながら、事業を進めていくことができた。
総評
<ul style="list-style-type: none">・武庫庄小学校の地域は、学校を支えたいと積極的に関わってくれる方が多いところで、学校での活動が健やかで望ましい姿になることが、地域での生活も安定し活性化するものだと思う。今年度は、発足の年だったが、コロナ禍において活動に制限があり自由にできなかった部分もある。しかし、次年度以降の活動の下地になったと感じている。・案山子づくり等、コロナ禍だから生まれたアイデアを活かす等、工夫を凝らして地域学校協働活動を継続し、学校と地域の連携を地域にもPRできた。・学校運営協議会の運営については、社会教育課と学校運営協議会で連絡を取りながら連携するとともに、地域や保護者への取組の周知については、両方で役割分担をしながら実施することができた。・モデル校としての実績を社会教育課と共有し、本市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進に向けたノウハウを蓄積することにつながった。

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	尼崎市立花南小学校運営協議会 会長 山下 勝之
事業名	令和2年度コミュニティ・スクールモデル事業

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、E（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	A
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	A
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	B	B
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関わられたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		
(3)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	会議を開催し、コミュニティ・スクールの目的について共通理解を図る。
	測定方法	会議を3回開催するなかで、会議の様子や委員の感想を聞いて判断する。
	結果	初年度のため、コミュニティ・スクールの目的を伝えるための説明を丁寧に行うことで、会議の方向性について、確認することができた。

3 総合評価

協働側面の評価

- ・コロナ禍の中、十分な討議が出来なかった。しかし、来年度に向けての方向性について確認できたことは大きな成果と言える。
- ・事前に行う役員会に社会教育課も参加し、会議の運営方法等を常に相談しながら進めることで、学校運営協議会の会議で話し合う内容を深めることができた。

事業効果の評価

- ・これまでの活動から更に拡げ、学習支援という新しい分野の活動をスタートできたことは大きな成果である。今後は、更に支援体制を広げていきたい。
- ・会議に社会教育課も参加し、コミュニティ・スクールは、活動を通じて学校のことや子どもの様子を知ってもらうことから始め、地域と学校が連携することで、子どもたちの学習の充実や教師の負担軽減につながることを説明し、運営協議会の方向性を互いに確認した。

総評

- ・学習支援をしていただくことで地域の方に、子どもと直に接してもらうことができた。子どもたちにとって、教師以外の大人と触れ合うことは大きな異議があることだと考える。今後も色々な分野で地域の方の支援を受けて生活していることを実感できる機会を増やしていきたい。
- ・社会教育課も会議に参加し、コミュニティ・スクールの制度や趣旨について説明を行い、会議の方向性を確認し合うことによって事業を円滑に進めることができた。
- ・学校運営協議会の運営については、社会教育課と学校運営協議会で連絡を取りながら連携するとともに、地域や保護者への取組の周知については、両方で役割分担をしながら実施することができた。
- ・モデル校としての実績を社会教育課と共有し、本市のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進に向けたノウハウを蓄積することにつながった。